

彙 報

第一〇回総会（議長 小林昌二氏）

会務報告（館野和己委員）

会員の状況（新入会員九名を含め、個人会員三三三名、海外会員三名、団体会員四団体）、学会創立二〇周年記念事業として、長野特別研究集会を実施したこと（六月）、長屋王家木簡のシンポジウムを開催したこと（今次研究集会一日目）、「日本古代木簡選」の続編の編集を進めていること、および常任委員会の開催状況や幹事の交替などが報告された。

第二〇回総会および研究集会

木簡学会第二〇回総会および研究集会は、一九九八年一二月五・六日に、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館講堂において、一七

九人の会員の参加を得て開催された。会場には、平城宮・平城京跡、飛鳥池遺跡、細工谷遺跡の出土木簡、長屋王家木簡が展示され、併せて観音寺遺跡、難波宮跡の出土木簡の写真が展示された。今回は、一日目に木簡学会創立二〇周年を記念して長屋王家木簡を主題にしたシンポジウムを、二日目に総会および研究集会を開催した。

◇一二月五日（土）（午後一時～六時）

狩野久会長の開会の挨拶の後、シンポジウムを開催した。

研究集会 シンポジウム「長屋王家木簡をめぐって」

コーディネーター

削屑からみた長屋王家木簡

長屋王家の米支給関係木簡

長屋王家の経済基盤と荷札木簡

◇一二月六日（日）（午前九時～午後三時）

長野特別研究集会報告（平川南委員）

六月五・六日に、長野県更埴市において、長野県立歴史館および長野県埋蔵文化財センターとの共催で開催された特別研究集会について、計二二三名（内会員は一二三名）の参加をえたことなどが報告され、あわせて決算報告がなされた（詳細は本誌第二〇号）。

編集報告（清水みき委員）

『木簡研究』第二〇号の編集過程について、より正確な釈文を提供するため「釈文の訂正と追加」欄を新設したことと、これに伴い凡例の位置を変更したことなどが報告された。

会計・監査報告（山中敏史委員・岩本次郎監事）

山中委員から一九九七年度の一般会計および特別会計の決算報告が行なわれ、岩本監事から会計事務は適正に執行、処理されている旨の監査報告がなされた。次いで山中委員から一九九九年度の予算

案が提案された。

以上の案件は、すべて異議なく了承された。

役員改選

次期（一九九九・二〇〇〇年度）の委員および監事について、鎌田元一氏から提案があり、委員会推薦の全候補が承認された（三一二ページ参照）。

研究集会

報告（司会 佐藤信氏）

一九九八年全国出土の木簡

館野和己氏

観音寺遺跡出土の木簡
和田萃氏・藤川智之氏

前期難波宮出土の木簡
佐藤 隆氏

飛鳥池出土の木簡
寺崎保広氏

館野和己氏

館野氏の報告は、例年どおり、全国の出土木簡・遺跡（六一遺跡）について説明したもので、その多くは本号に収録できた。他の三報告は、いずれも七世紀木簡を対象とした。

討論（司会 西山良平氏）

四報告に対する質疑・討論が行なわれたが、とくに観音寺遺跡出土木簡以下の三報告がいずれも七世紀木簡であるため、活発な討論が行なわれ、当該遺跡・木簡への関心と理解を深めることができた。

最後に、佐藤宗諱副会長の挨拶で、研究集会を終了した。

◇一九九八年二月五日（土）午前一〇時三〇分～午後〇時

於奈良国立文化財研究所
総会に先立ち、会務、編集、会計報告があり、総会・研究集会の運営、役員の改選、創立二十周年記念事業、九九年度予算案などについて協議を行なった。

なお、次期（一九九九・二〇〇〇年度）委員に選出された委員が、六日の総会後、先例により委員会を開き、次期会長に佐藤宗諱氏、副会長に鎌田元一・田辺征夫の両氏を選出した。

◇一九九九年六月七日（月）午後三時～午後五時

於奈良国立文化財研究所
会務報告の後、新規常任委員の委嘱（鎌田元一・清水みき・山中敏史・館野和己・山下信一郎・鶴見泰寿の六氏）および幹事の委嘱（岩宮隆司氏）が承認された。一九九八年度一般会計および特別会計の決算報告および監査報告が行なわれ、承認されたが、会計処理へのコンピュータ導入の可能性や海外会員への会誌の送料などについて意見が出された。次いで入会審査が行なわれた。会誌第二二号の編集状況（担当は清水みき・館野和己委員）、第二二回総会・研究集会の予定について報告があり、協議を行なった。また、併せて二十周年記念出版の進捗状況について説明が行なわれた。

◇一九九九年一月四日（木）午後三時～午後五時

於奈良国立文化財研究所
委員会報告

新規入会者一〇名の承認と退会者の確認を行なつた。ついで会誌

第二号の編集経過に関する報告があつた。また第二回総会・研究集会の内容を承認した。一九九九年度会計中間報告の審議などを行なうとともに、さらに創立二〇周年記念出版の準備状況について報告があつた。

(増渕 徹)

編集後記

窓辺の紅葉に霜の降りる季節となり、編集作業も最後の追い込みを迎えていた。お届けする二一号は、昨年に引き続き三〇〇頁をこえる大部な本となつた。この分量には、奈文研で編集を担当する館野和己氏の奮闘も限界に達しようとしている。

全国各遺跡からの報告は、これまで最多の八二件を収載することができた。飛鳥池遺跡の長文の報告をはじめ、一つ一つの遺跡名をあげることはできないが、ご多忙の中、貴重な情報を提供いただき、ご執筆くださった調査担当者、関係各機関に心からお礼を申し上げたい。

本号は他に、創立二〇周年記念事業の一つ長屋王家木簡シンポジウムの三報告と討論の記録、書評、奈文研で写真を担当される井上直夫氏の「木簡の撮影」を収載した。木簡の豊かな情報を遺し、また公開するために正確な撮影技術は欠くことができない。

巻頭言も、木簡データベースの公開の現状と、研究利用への提言である。情報を共有し、多量のデータを駆使した研究を支える基礎は、木簡一点一点の正確な情報化に辿り着く。古代から普く各時代の木簡を網羅しようとする本誌の編集の精度については、まだ大きな工夫が必要と思われる。

(清水みき)

| 木簡学会役員（一九九九・二〇〇〇年度） | |
|---------------------|-------|
| 会長 | 佐藤 宗諱 |
| 副会長 | 鎌田 元一 |
| 委員 | 今泉 隆雄 |
| | 岩本 正二 |
| | 榎木 謙周 |
| | 佐藤 信 |
| 監事 | 榮原永遠男 |
| | 清水 みき |
| 幹事 | 館野 和己 |
| | 寺崎 保廣 |
| | 東野 治之 |
| 西山 良平 | 西山 良平 |
| 糸山 明 | 平川 南 |
| 渡辺 晃宏 | 山中 敏史 |
| 石上 英一 | 和田 萃 |
| 岩宮 隆司 | 岩本 次郎 |
| 鶴見 泰寿 | 鷺森 浩幸 |
| 古尾谷知浩 | 土橋 誠 |
| 山本 崇 | 西村さとみ |
| 吉川 聰 | 鈴木 景一 |
| | 山下信一郎 |
| | 吉川 真司 |